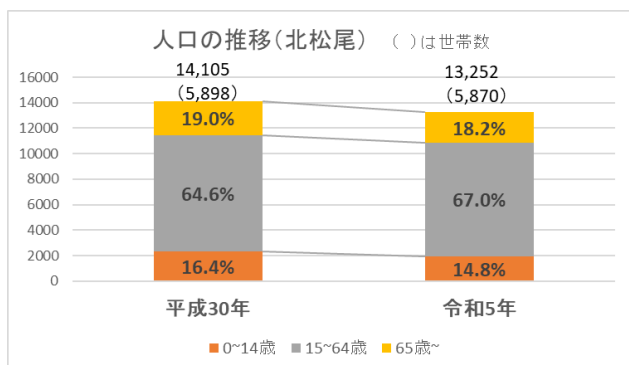


北松尾校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	6
	校区社協役員数	41
	校区社協ボランティア数	76
	民生委員・児童委員数	16
	老人クラブ会員数	1023
	いきいきいずみ体操数	6
	おたがいさまサポーター数	7
	高齢者見守り協力事業所数	11
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
自主防災組織の有無	有	
対象者数	ふれあい訪問利用者数	21
	誕生月訪問利用者数	164
	避難行動要支援者登録数	94

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.障がい者の理解が進みバリアフリーなまち	
3.みんなが集まれるイベントやお祭りがあるまち	
3.幅広い世代の人々の交流や付き合いが多いまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.障がい児やその保護者を支援する居場所	1.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.高齢者の経験や強みを生かせる場所	2.いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
2.子育てを応援してくれる場所	
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.雨の日でも遊べる場所
	3.体育館やプール
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.子どもの居場所づくり	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.高齢者の地域での見守り訪問.	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.高齢者の交流の場づくり(いきいきサロンなど)	3.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする

地域での話し合い(ワークショップ)での意見

- ❖ 色んな地域活動をしていても、アンケート結果からは、校区社協の活動を知らない人が多いので、広く活動を知ってもらいたい。
- ❖ 災害はいつ起こるか分からないので、日頃から対策や助け合いを考えていきたい。
- ❖ 子どもから高齢者まで交流出来る場を考えていきたい。

北松尾校区の活動テーマ

支えあえる町北松尾

私たちの重点取り組み

重点取り組み①

【目 標】 「校区社協の活動を知ってもらい、利用する人や一緒に活動する人を増やしていこう」

【具体的な取り組み】

- 北松尾校区の活動についてのパネルや冊子、チラシを作成し周知していく
- 各町会・自治会会報誌への継続的な情報提供で活動を知ってもらい、担い手も募集していく
- 各種行事を通しての活動PR（小さい頃から地域の事を知ってもらう）

重点取り組み②

【目 標】 災害時に助け合える町にしていこう

【具体的な取り組み】

- 校区で防災研修や訓練を実施していく
- 子どもさんや親も楽しく参加してもらえる災害の訓練を企画し、行事の1コマで実施していく
- 高齢者や障がい者等が安全に避難出来るように考える

重点取り組み③

【目 的】 日々の話し合いが出来るように顔見知りの人を増やしていこう

【具体的な取り組み】

- いきいきサロンへ参加した事のない人（高齢者・子ども等）の参加を促す
- 高齢者・子ども等が参加しやすい行事や集いの場を考え試していく
- 老人クラブや各種団体とのコラボで世代間交流の出来る行事等を企画



北松尾校区社会福祉協議会

北松尾校区の活動テーマ

ささえあえる町北松尾

重点取組み①

校区社協の活動を知ってもらい、利用する人や一緒に活動する人を増やしていこう

毎年行っている校区社協の広報誌を作成し、全戸配布することで、多くの方に向けて地域の活動や研修会の報告等を行うことが出来ました。北松尾小学校で開催したふれあいフェスタにおいて、校区社協や民生委員・児童委員、地域の相談機関の活動や業務についての紹介を行うことが出来ました。



重点取組み②

災害時に助けあえる町にしていこう

8月に日赤指導員による「災害図上訓練」研修会を開催し、町別で身近な危険個所について話し合いを行いました。1月には阪神淡路大震災の体験談をお聞きした後に人と防災未来センターで震災時の様子の展示資料や映像を通じ、防災・減災について皆で学びました。

重点取組み③

日々の話しあい出来るように顔見知りの人を増やしていこう

校区町会連合会や校区社協の役員、ボランティア、幼稚園等の地域の関係団体の参加・協力のもと、北松尾校区ふれあいフェスタを開催し、子どもから大人まで多くの来場者に様々な催しを楽しんでいただき、交流することが出来ました。



令和7年度は…



協議の場を定期的で開催し、アクションプランに沿った地域の様々な取り組みを着実に推進することが出来ました。日赤指導員による防災セミナーの開催、文化祭では多くの方に参加いただき、地域のつながりを深めることが出来ました。年度末には地域の取り組みをより多くの方に知っていただくため、広報誌を作成し、配付する予定としています。